



詳細分布調査報告書

横田町の遺跡Ⅲ

—八川地区—

2000.3

島 根 県

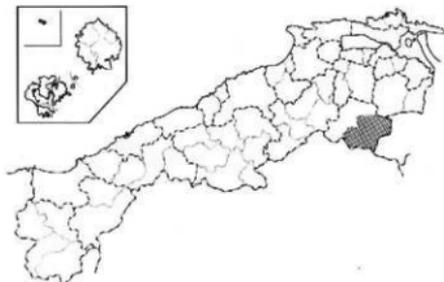
横田町教育委員会

例 言

1. 本書は、平成11年度、国庫・県補助事業として横田町教育委員会が実施した町内遺跡詳細分布調査報告書である。
2. 本調査は、横田町八川区内（61.18km²）を実施した。
3. 調査体制は次の通りである。

調査主体	横田町教育委員会	教育長	浅野俊夫
調査指導	島根県教育庁文化財課	高橋一郎	（町文化財専門委員） 木原 明（同）
調査担当	高尾昭浩	（横田町教育委員会主事）	
調査員	安部 英	永濱順子	若槻芳充 今永幸児
調査補助員	石原達也	児玉圭子	平田聡子
事務局	中沢光政	（横田町教育委員会教育次長）	古沢宏矩（同次長補佐）
4. 本書の分布地図は、島根県の承認を得て森林基本図（1/5,000）の地図を1/15,000に縮小して使用した。
5. 埋蔵文化財包含地は、その種類によって6大別し、赤色の記号で表した。なお、その種類が2種類以上にわたって重複するときは、その主要なもので代表されている。
6. 本書の遺跡番号は、島根県遺跡地図番号を踏襲している。
7. 本分布調査は踏査による地表面の観察調査によるものである。したがって、本書に掲載されている遺跡のほかにも存在する可能性がある。
8. 調査にあたって、次の方から協力を受けた。記して謝意を表す。

荒木正芳	石田 勉	大塚英雄	川西貞義	佐伯重寿	佐伯 誠	鳥 要造	中湯一男
藤原 正	松崎 寛	山内博文	渡部高義	若月敏男			
9. 調査により作成した遺跡台帳は、横田町教育委員会で保存している。



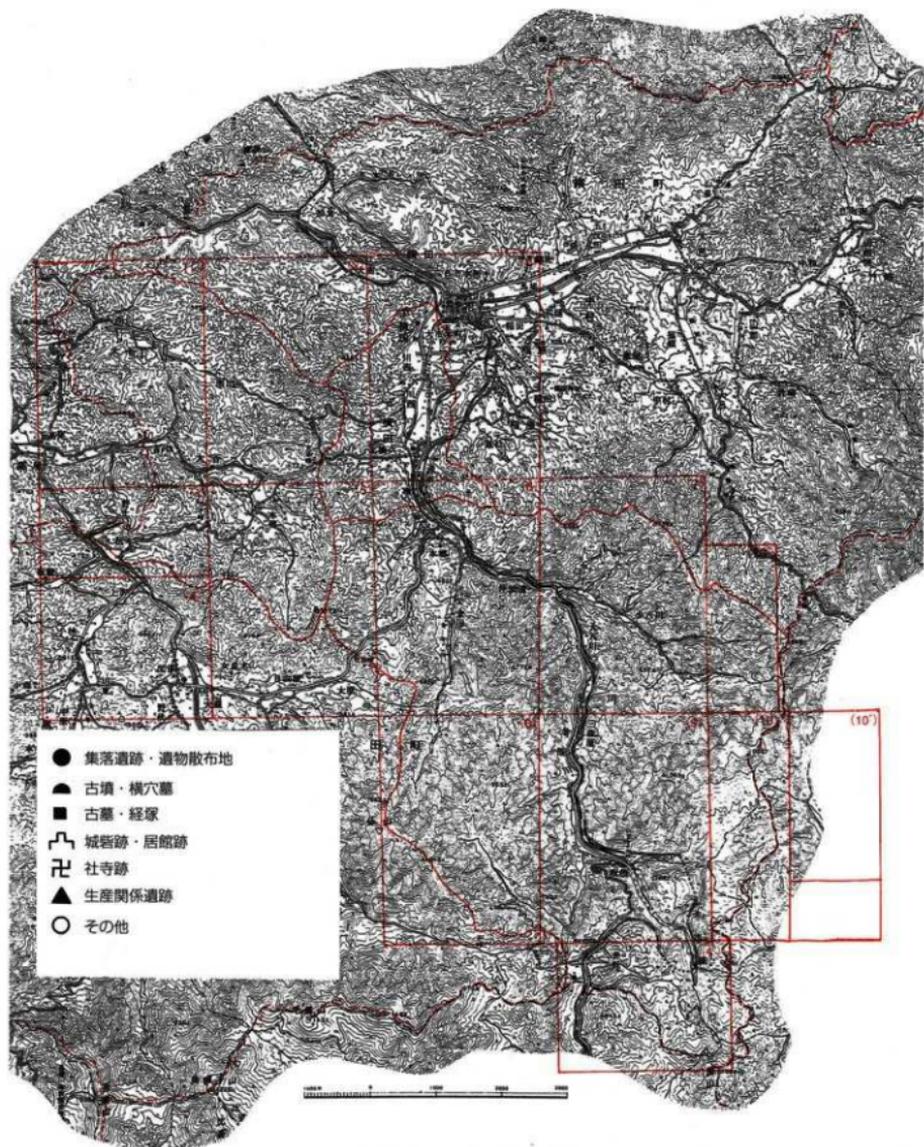
目 次

調査区域図	1
遺跡一覧表	12
立地と遺跡分布の概要	15
主な遺跡	18

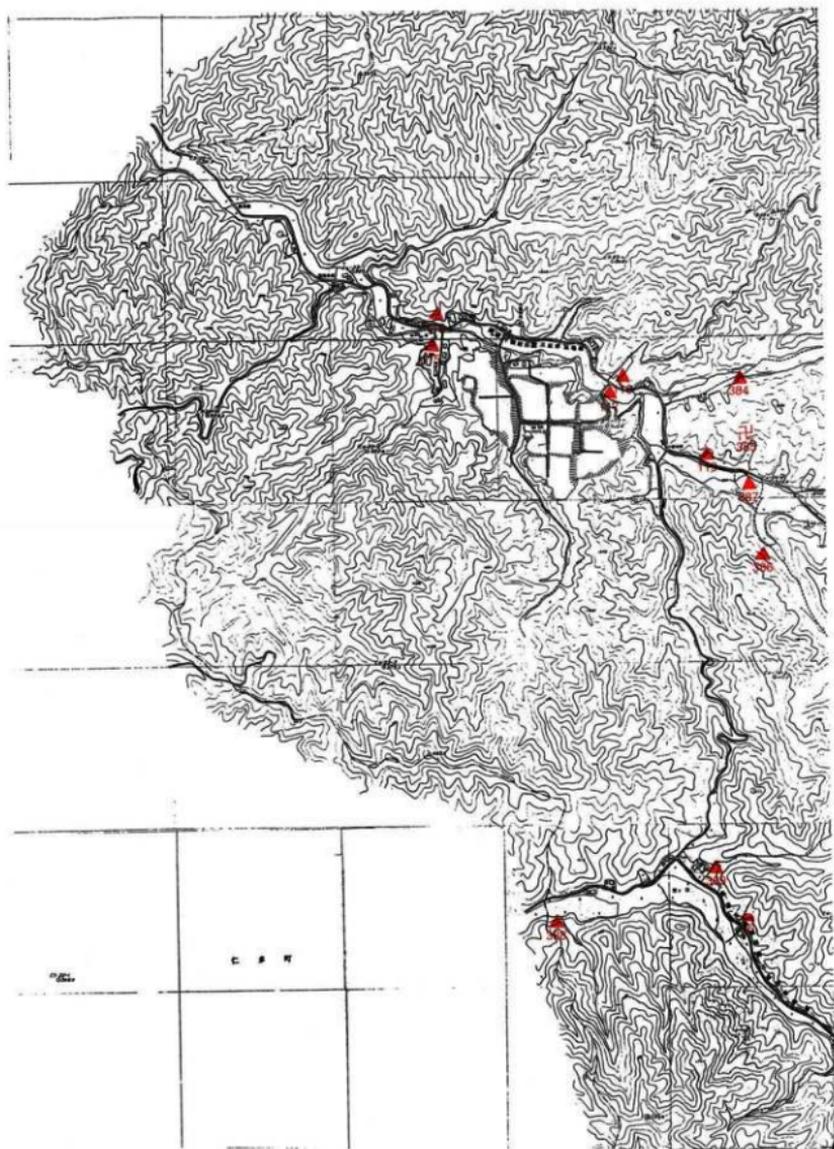
遺跡数集計表

	集落・敷布地	古・横穴	墳・横穴	古・経塚	高	城館遺跡	寺社地跡	生産遺跡	その他	計
三井野				2		1(1)		1		1
板根				4		1	3	5	1	19(1)
奥八川							1	5(2)		14
小八川				3		1		6	1	6(2)
中八川										11
八川本郷	1	1(1)		2			2	4		10(1)
八川(計)	1	1(1)		11		3(1)	6	37(2)	2	61(4)
古市	2(2)			2		1(1)	2	1		8(3)
土橋						2(1)		2		4(1)
川西	3(1)	4(4)						1(1)	1(1)	9(7)
下横田(計)	5(3)	4(4)		2		3(2)	2	4(1)	1(1)	21(11)
大谷本郷			4(3)					9(5)		13(8)
南川							1	15(6)		16(6)
大谷(計)		4(3)					1	24(11)		29(14)
合計	6(3)	9(8)		13		6(3)	9	65(14)	3(1)	111(29)

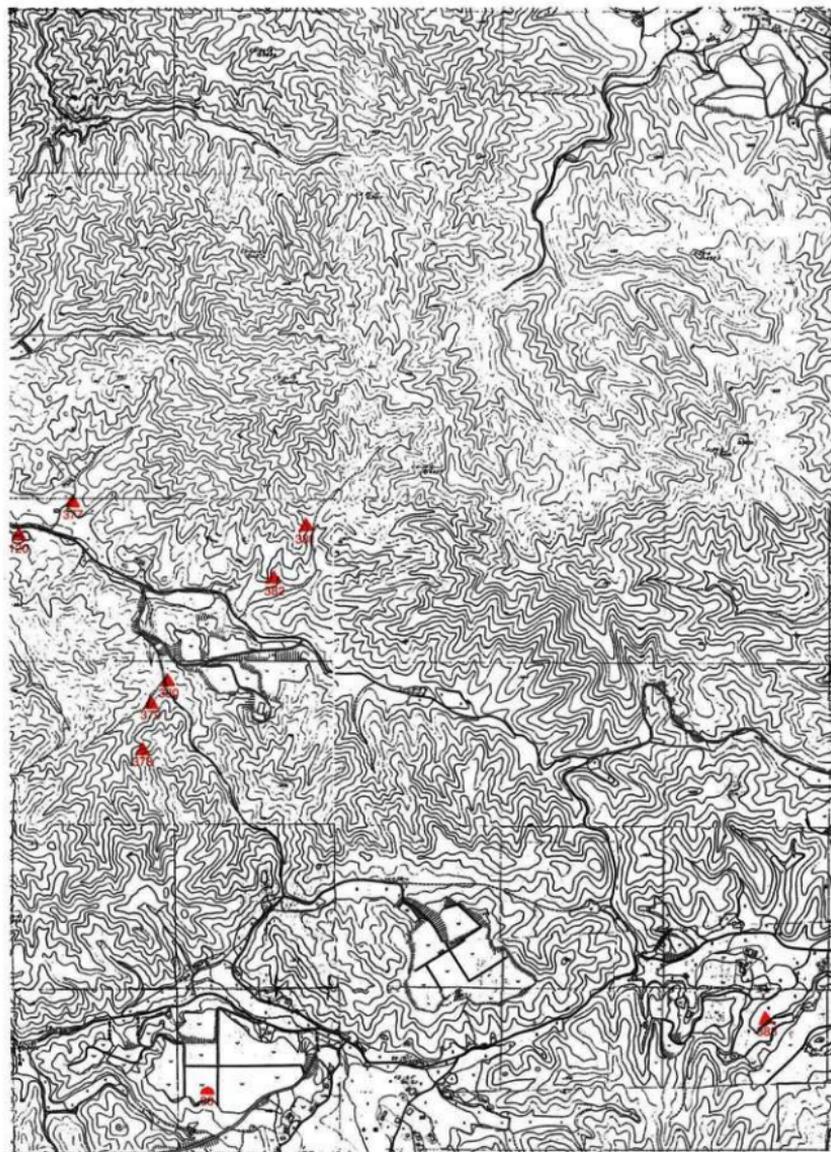
() 周知数



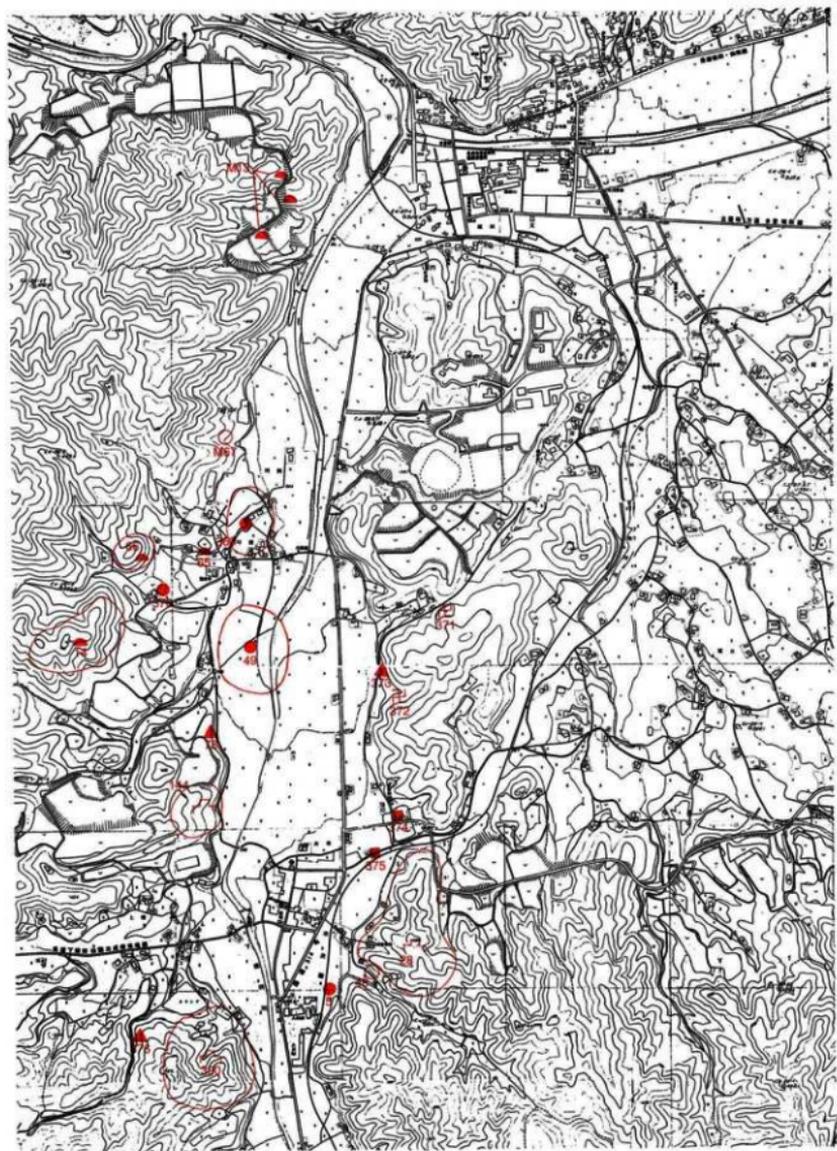
調査区域図(八川地区)



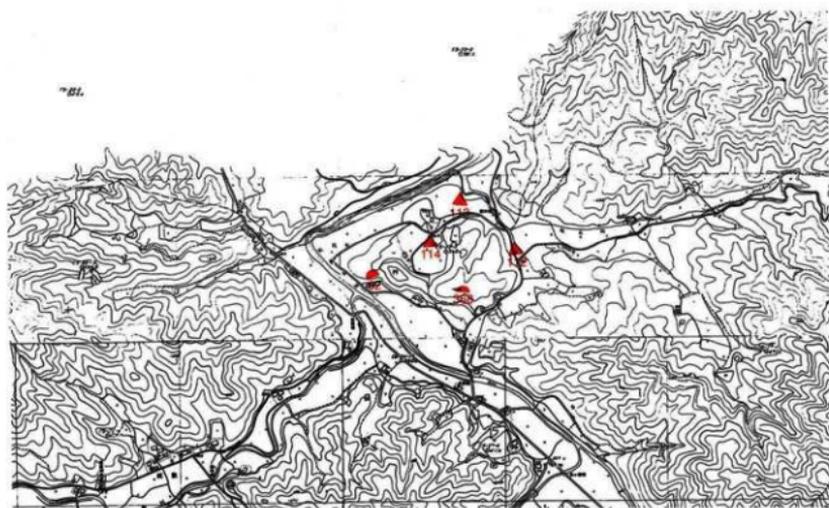
分 布 圖 (1)



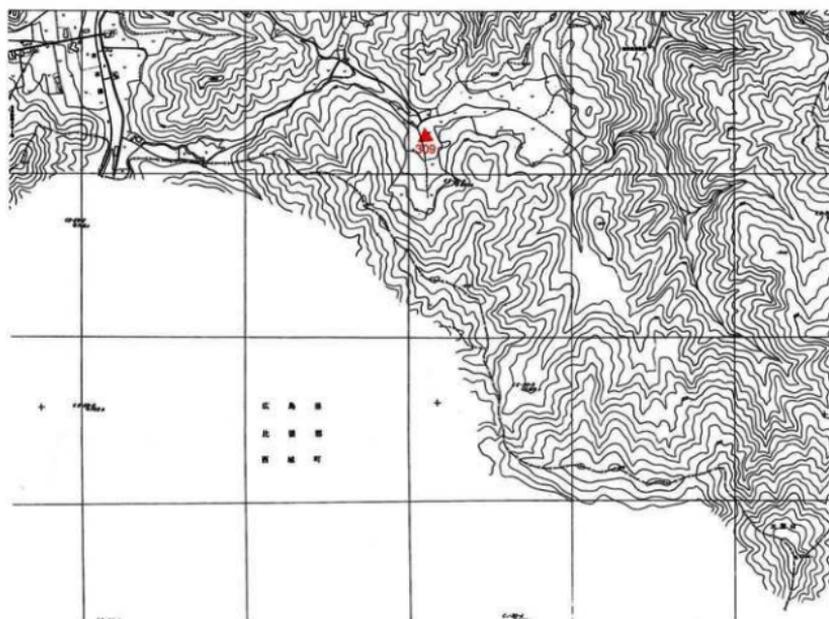
分 布 图 (2)



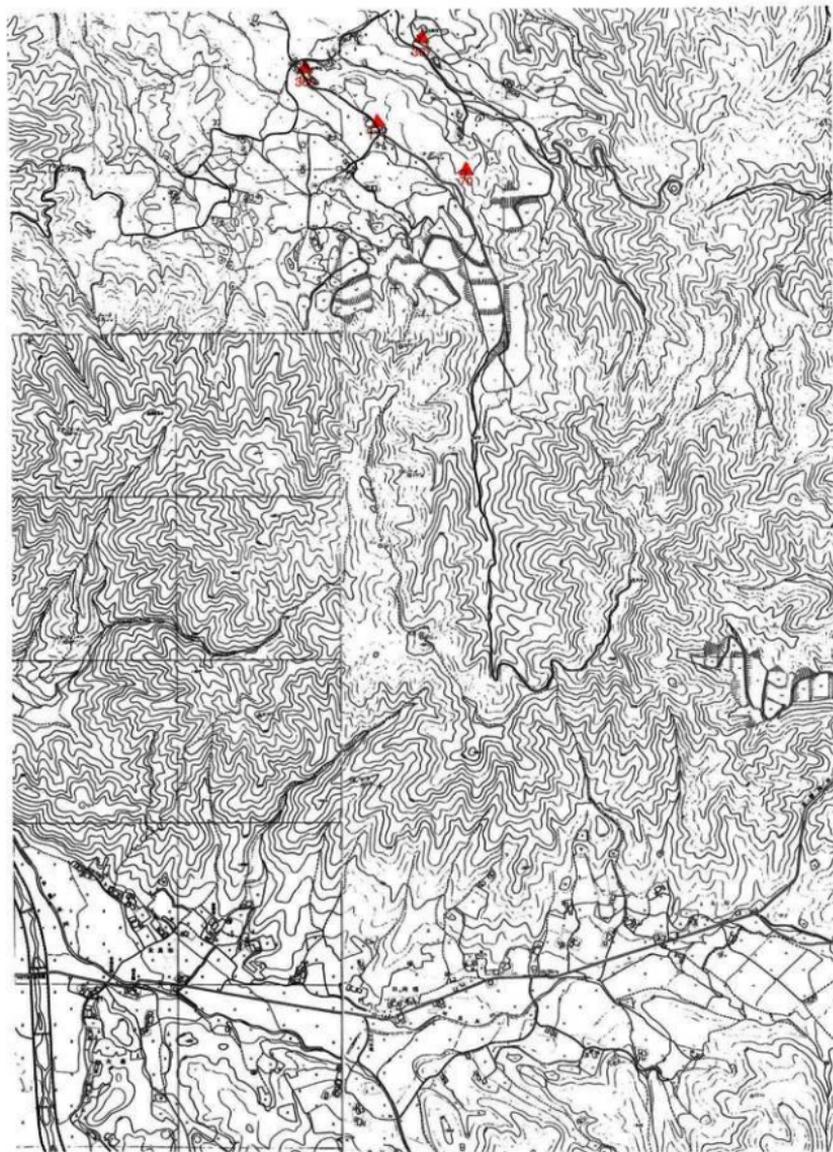
分 布 圖 (3)



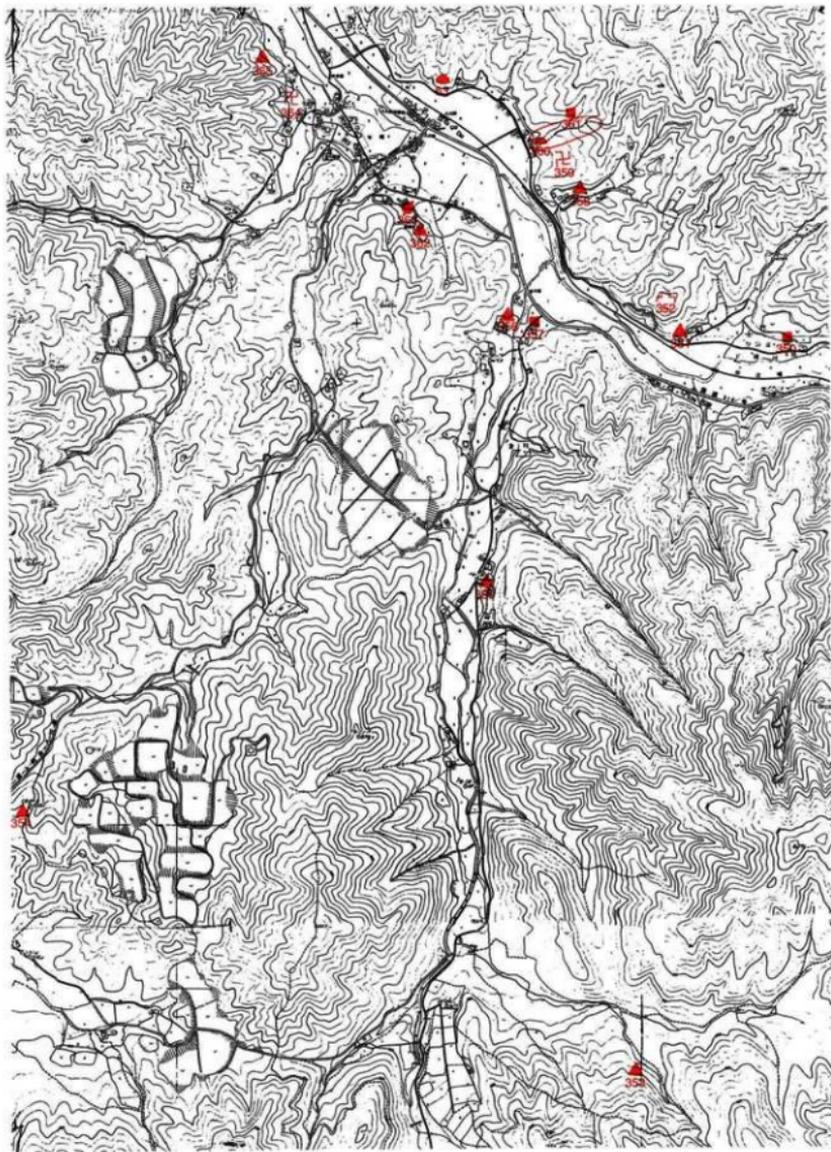
分布图(4)



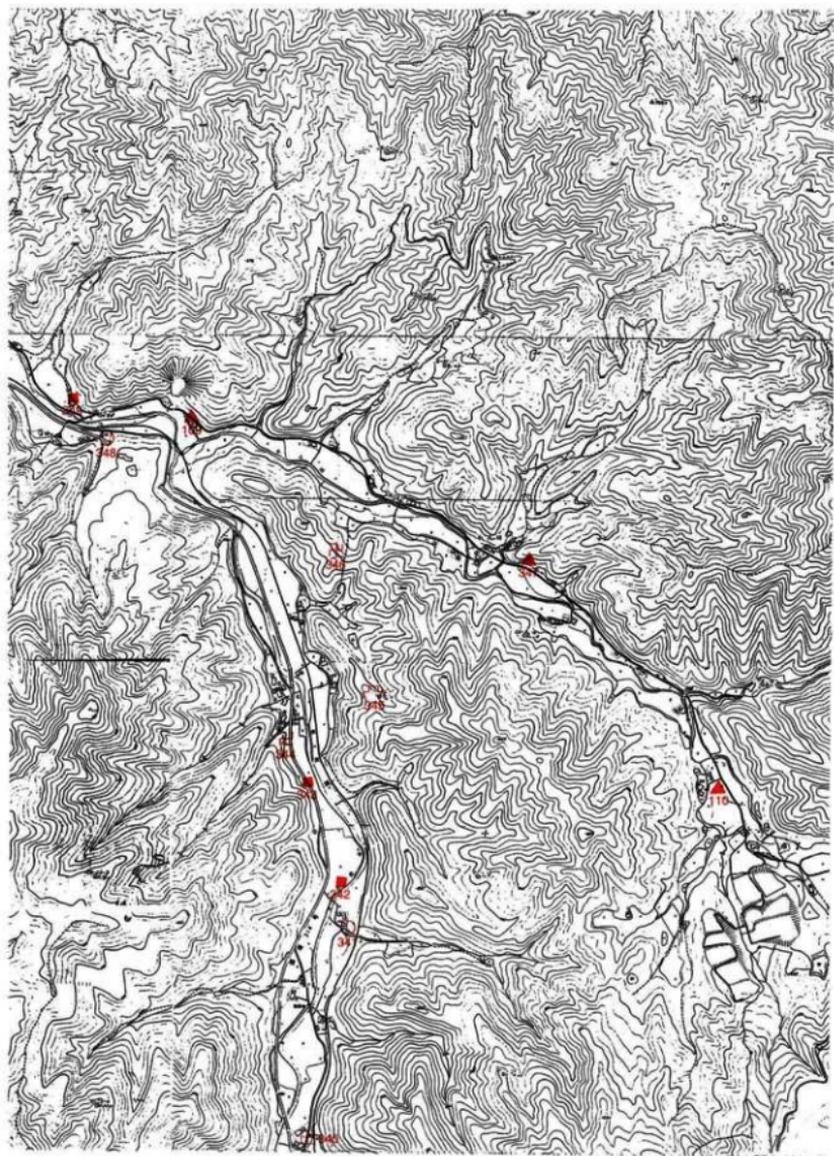
分布图(4')



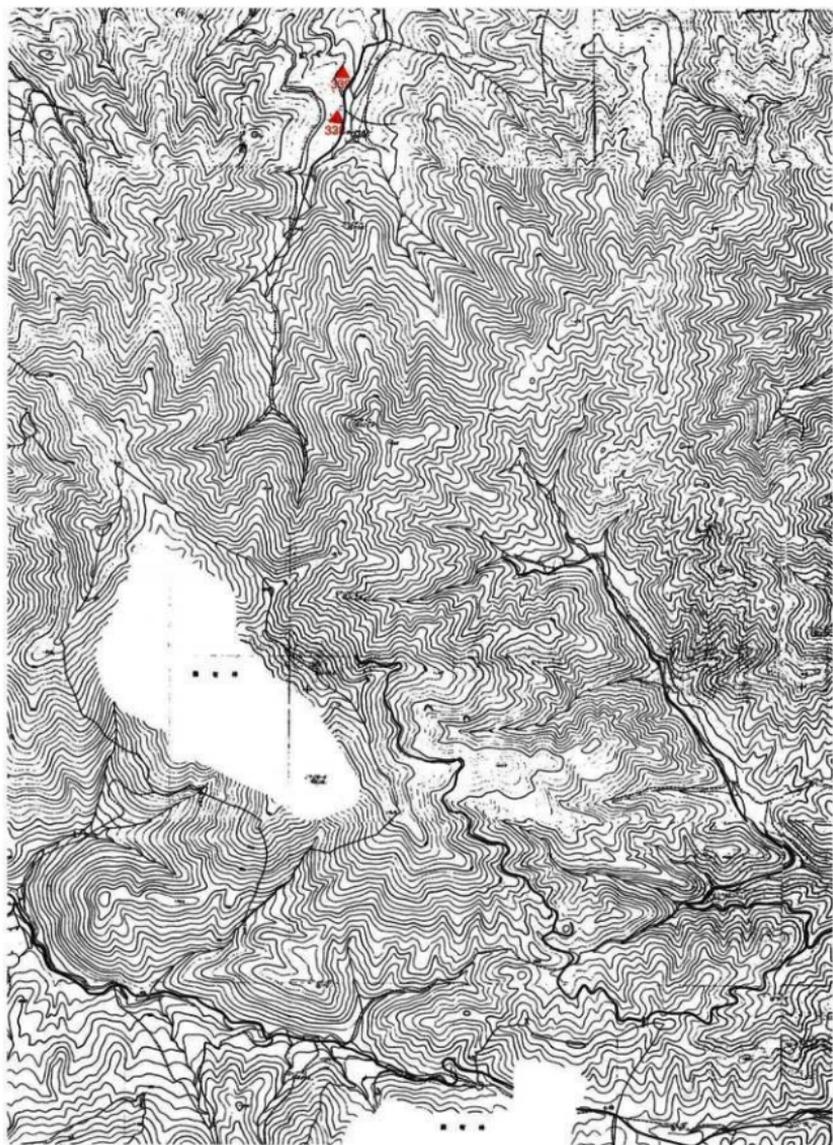
分 布 圖 (5)



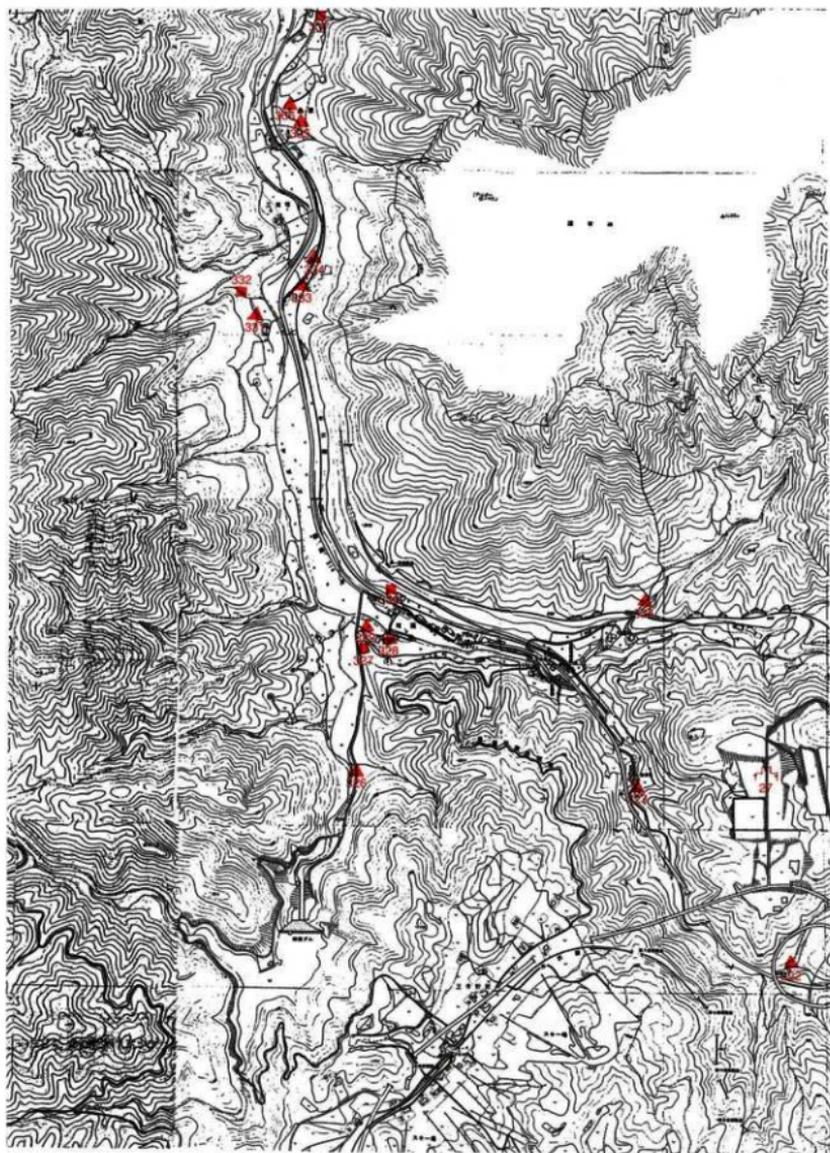
分 布 圖 (6)



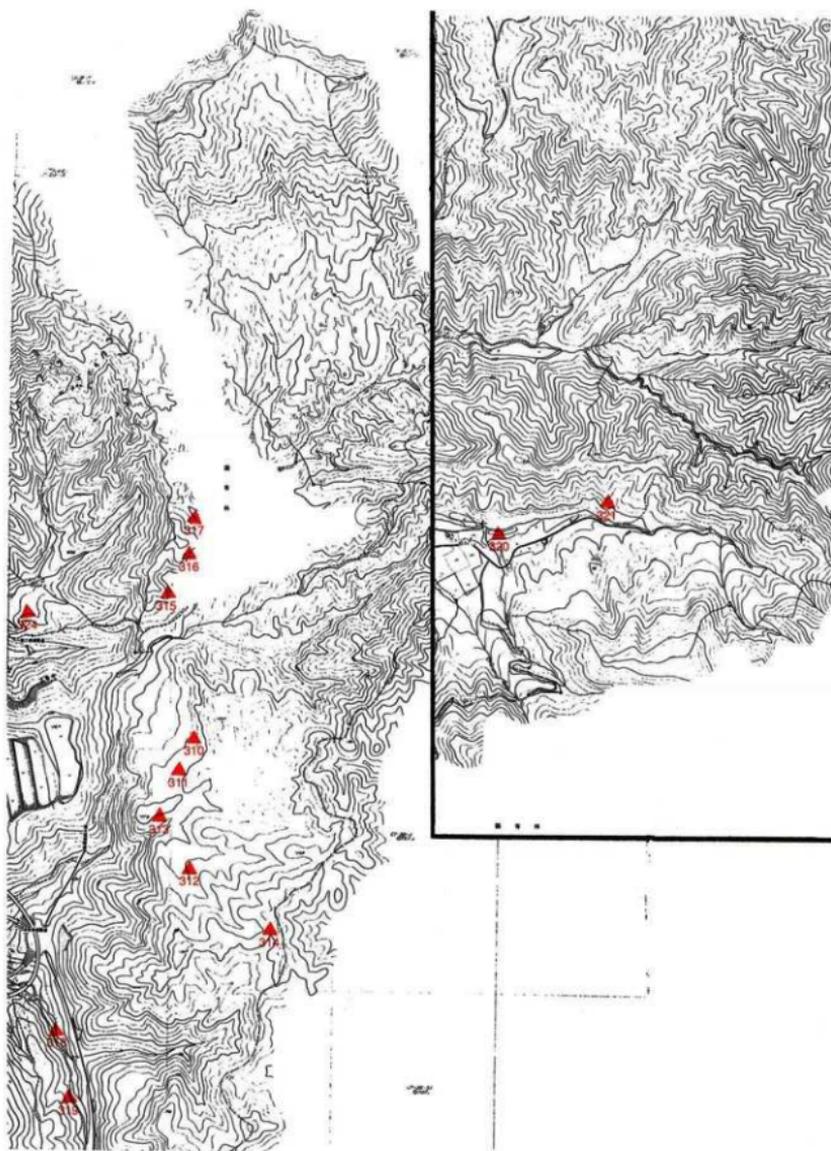
分布圖(7)



分布圖(8)



分布圖(9)



分 布 图 (10)

遺跡一覽表

三井野地区

種別	名称	種別	所在地	現況	概 要	地図
309	三井野銅跡	生産遺跡	奥三井野	畑	鉄滓散布、陶畑で一部消滅か	4

坂根地区

種別	名称	種別	所在地	現況	概 要	地図
27	伝平家一夜城跡	城郭	坂根 平家平	畑地	"陶磁器、刀"	9
310	瀬ノ谷入敷Ⅰ銅跡	生産遺跡	坂根 瀬ノ谷	山林	高殿様式、鉄滓	10
311	瀬ノ谷大畝Ⅱ銅跡	生産遺跡	坂根 瀬ノ谷	山林	高殿様式、鉄滓	10
312	瀬ノ谷大畝Ⅲ銅跡	生産遺跡	坂根 瀬ノ谷	畑	野銅様式、調査後消滅	10
313	瀬ノ谷入敷Ⅳ銅跡	生産遺跡	坂根 瀬ノ谷	山林	野銅様式、鉄滓	10
314	瀬ノ谷大畝Ⅳ銅跡	生産遺跡	坂根 瀬ノ谷	山林	高殿様式か、鉄滓	10
315	瀬ノ谷大畝Ⅴ銅跡	生産遺跡	坂根 瀬ノ谷	山林	野銅様式、鉄滓	10
316	瀬ノ谷大畝Ⅵ銅跡	生産遺跡	坂根 瀬ノ谷	山林	野銅様式、鉄滓	10
317	瀬ノ谷入敷Ⅶ銅跡	生産遺跡	坂根 瀬ノ谷	山林	高殿様式、鉄滓	10
318	奥伊谷Ⅰ銅跡	生産遺跡	坂根 奥伊	山林	高殿様式、鉄滓	10
319	奥伊谷Ⅱ銅跡	生産遺跡	坂根 奥伊	山林	野銅様式、鉄滓	10
322	奥伊跡	生産遺跡	坂根 奥伊	山林、産	藤原家採葉の銅跡、遺構不明確	9
323	奥伊跡	生産遺跡	坂根 奥伊	山林	金屋子神社有り	9
324	坂根瀬ノ谷Ⅰ銅跡	生産遺跡	坂根 瀬ノ谷	山林	元文年間社家、安部氏寄り合い吹き株桑、石像に銘あり	10
325	坂根瀬ノ谷Ⅱ銅跡	生産遺跡	坂根 瀬ノ谷	畑	高殿様式、大型鉄滓散布	9
326	丸岡銅跡	生産遺跡	坂根 丸岡	畑、山林	雲伯鉄滓協会操業高炉	9
327	家ノ西古墓	古墓	坂根 家ノ西	高地	五輪塔残欠1基	9
328	坂根上鍛冶屋跡	生産遺跡	坂根 上鍛冶屋	宅地	近世鍛冶屋跡	9
329	坂根下鍛冶屋跡	生産遺跡	坂根 下鍛冶屋	畑	近世鍛冶屋跡	9
330	家のウキ古墓	古墓	坂根 下山根	畑・原野	五輪塔残欠2基以上、寺跡地か	9

奥八川地区

種別	名称	種別	所在地	現況	概 要	地図
331	仲岡銅跡	生産遺跡	三森原 仲岡	水田	野銅様式、鉄滓	9
332	金井谷尻古墓	古墓	三森原 金井谷尻	山林	五輪塔残欠1基	9
333	三森原銅吹Ⅰ銅跡	生産遺跡	三森原 銅原	畑	野銅様式、鉄滓	9
334	三森原銅原Ⅱ銅跡	生産遺跡	三森原 銅原	宅地	高殿銅、宅地下が本床である	9
335	オノ木道上銅跡	生産遺跡	三森原 オノ木道上	水田	高殿様式、鉄滓多数散布	9
336	オノ木道上鍛冶屋跡	生産遺跡	三森原 オノ木道上	水田、畑	水田と畑地内に所在	9
337	三森原古墓	古墓	三森原 追下筋	雑種地	五輪塔残欠	9
340	樺木ノ福宮跡	社寺	三森原 宮ツキ	道路	消滅か	7
341	三森原倉所跡	その他	三森原 金原	畑地	道路にて消滅、小八川遺分岐点に所在	7
342	森ノ脇古墓	古墓	三森原 森ノ脇	雑種地	荒神社と同所に所在	7
343	大八川榎葉寺上古墓	古墓	大八川 長畑	墓地	宝篋印塔1基以上、五輪塔6基以上	7
344	榎葉寺跡	社寺	大八川 榎葉	畑地	周辺地高地、安倍氏最初の居住地隣接	7
345	奥八川齋跡	城郭	大八川	山林	のろし岩跡?	7

小八川地区

種別	名称	種別	所在地	現況	概 要	地図
109	七石銅跡	生産遺跡	小八川 七石	水田宅地	高殿様式か詳細不明	7
110	小八川銅原銅跡	生産遺跡	小八川 銅原	水田	高殿様式、は場整備にて消滅か	7
320	銅原奥銅物屋跡	生産遺跡	小八川 イモノヤ	水田	水田中にて詳細不明	10
321	銅原奥銅跡	生産遺跡	小八川	山林	高殿様式、鉄滓	10
346	多間寺跡	社寺	小八川 多間寺	畑・原野	詳細不明、丘陵中腹に所在	7
347	小八川銅物屋跡	生産遺跡	小八川 イモノヤ	畑地	近所に「銅物屋」という屋号有り	7

中八川地区

群別	名称	種別	所在地	現況	概 要	通称
338	金川奥日鈿	生産遺跡	金川	山林	野鈿様式、鉄滓	8
339	金川奥日鈿	生産遺跡	金川	山林	野鈿様式、鉄滓	8
348	仲仙道香所跡	その他	仲仙道 香所	雑種地	小八川道と分岐点に所在	7
349	田反原古墓	古墓	仲仙道 田反原	雑種地	五輪塔残欠2基	7
350	高橋古墓	古墓	仲仙道 高橋	墓地	五輪塔残欠1基	6
351	下二ノ宮鈿跡	生産遺跡	仲仙道 下二ノ宮	畑地	野鈿様式、鉄滓	6
352	家ノ上製跡	城郭	仲仙道 家ノ上	山林	のろし製跡という、頂上部平坦地、城山と呼ばれている	6
353	金川奥日鈿	生産遺跡	金川	山林	高殿様式、鉄滓	6
355	金川カナクソ鈿跡	生産遺跡	金川 カナクソ	水田	高殿様式、周辺かなり鉄滓散布	6
356	金川鍛冶屋跡	生産遺跡	金川 鍛冶屋	畑地	詳細不明であるが小字名を残す	6
357	金川無上堂古墓	古墓	金川 無上堂	畑	宝篋印塔1基、五輪塔5基	6

八川本郷地区

群別	名称	種別	所在地	現況	概 要	通称
63	占塚上古墳	古墳	日向側 古谷上	山林	横穴式石室	6
354	叶谷鈿跡	生産遺跡	叶谷	雑種地	結原家棟梁の鈿跡と推察される	6
358	貝ノ谷鍛冶屋跡	生産遺跡	日向側 貝ノ谷	水田・畑	常木家棟梁の大鍛冶屋跡、桃形滓	6
359	無量寺跡	社寺	日向側 道ノ上	山林	1757年(宝暦7年)に台風にて倒壊、本尊は高橋寺所蔵	6
360	貝ノ谷古墳	古墳	日向側 貝ノ谷	山林	円墳、横穴墓群も所在か	6
361	井原古墓	古墳	日向側 井原	墓地	五輪塔残欠1基	6
362	寺ノワキ鈿跡	生産遺跡	高畦 寺ノ脇	畑地	野鈿様式、鉄滓	6
363	深高畦遺跡	散布地	高畦 深高畦	畑地	須恵器、土師器散布	6
364	法代寺跡	社寺	宮谷 法代寺	畑・墓地	字名を残す	6
365	火尻ヶ廻鈿跡	生産遺跡	宮谷 火尻ヶ廻	山林	高殿様式、鉄滓	6

古市地区

群別	名称	種別	所在地	現況	概 要	通称
5	五日市道跡	散布地	古市 五日市	水田	須恵器、土師器散布、酒甕	3
28	三笠山城跡	城郭	古市 三笠山	山林	山城、朱鉄、土師質土器、石厚氏居館	3
48	伊谷遺跡	その他	古市 伊谷	雑種地	かわらけ、祭祀遺跡	3
371	才ノ峰寺跡	社寺	中山 古寺	山林	石像残存、字名に「古寺」と残す	3
372	中山会館裏寺跡	社寺	中山 古寺	山林・畑	字名を残す、井戸跡残存	3
373	中山会館前鈿跡	生産遺跡	中山 古寺	道路、畑	野鈿様式、鉄滓散布	3
374	古市込堂1古墓	古墓	古市 込堂	墓地	宝篋印塔残欠1基	3
375	古市込堂2古墓	古墓	古市 込堂	墓地	宝篋印塔残欠2基、五輪塔残欠1基	3

土橋地区

群別	名称	種別	所在地	現況	概 要	通称
144	堂ノ廻城跡	城郭	土橋	山林	小規模な倉か	3
376	土橋1鈿跡	生産遺跡	土橋	畑地	野鈿様式、鉄滓	3
383	土橋2鈿跡	生産遺跡	土橋 鈿谷	水田	ほ場整備にて消滅	2
390	倉澤城跡	城郭	土橋	山林	鉄穴泥して一部消滅	3

大谷本郷地区

種別	名称	種別	所在地	現況	概要	地図
16	古ヶ口古墳	古墳	古ヶ口 穴観音	山林	横穴式石室、移築	1
62	杭木古墳	古墳	杭木 仏前	山林	横穴式石室	4
70	大内谷廃跡	生産遺跡	大谷 大内谷	道路	須恵器、消滅	5
88	平ヶ谷横穴墓	横穴	大谷	畑	消滅	2
111	大谷栢原跡	生産遺跡	大谷 栢原	宅地・山	大型銅鏡あり、大半消滅	5
112	杭木三又遺跡	生産遺跡	杭木 中山	道路	消滅	4
113	杭木跡	生産遺跡	杭木 鈿床	水田	高殿鈿、金屋子持社有り	4
114	杭木鈿床跡	生産遺跡	杭木 鈿床	水田	高殿様式	4
366	大谷鈿床跡	生産遺跡	大谷 鈿床	山林・畑	高殿鈿様式、木床は道路下か	5
367	大妻寺前道下殿所遺跡	生産遺跡	大谷 殿治屋	水田	休耕田地内、詳細不明	5
368	杭木中山横穴墓	古墳	杭木 中山	山林	横穴墓1基、調査後消滅	4
388	古ヶ口カナクツ跡	生産遺跡	古ヶ口 カナクツ	山林	高殿鈿、大型鉄滓散布	1
389	松原宅敷跡	生産遺跡	古ヶ口 殿治屋	墓地	野鈿と殿治屋の複合か	1

雨川地区

種別	名称	種別	所在地	現況	概要	地図
115	鉄穴跡	生産遺跡	雨川 鉄穴跡	宅地	絲原家の主力鈿、現絲原記念館	1
116	雨川鈿床跡	生産遺跡	雨川	宅地	宅地下が木床、高殿鈿	1
117	隠地跡	生産遺跡	雨川	雑種地	県指定史跡、中世から近世までの4基所在	1
118	隠地北跡	生産遺跡	雨川	墓地	若月一夫氏墓地を含む法面・帯鉄滓散布	1
119	鈿垣内跡	生産遺跡	雨川 鈿垣内	山林	大型銅土、絲原記念館に所在	1
120	大之内跡	生産遺跡	雨川 代ノ木	畑、山林	道路拡張で廃部が切り取られる。主体部温存	2
377	若月利男宅右上跡	生産遺跡	雨川 殿治屋	畑地	字名は「殿治間」だが製鉄滓散布	2
378	雨川叶谷Ⅰ跡	生産遺跡	雨川 叶谷	山林	高殿様式、鉄滓	2
379	雨川叶谷Ⅱ跡	生産遺跡	雨川 叶谷	山林	高殿様式、鉄滓	2
380	雨川叶谷Ⅲ跡	生産遺跡	雨川 叶谷	山林	高殿様式、鉄滓	2
381	雨川滝ノ谷Ⅰ跡	生産遺跡	雨川 滝ノ谷	山林	高殿様式、鉄滓	2
382	雨川滝ノ谷Ⅱ跡	生産遺跡	雨川 滝ノ谷	山林	高殿様式、鉄滓	2
384	雨川滝ノ谷尻跡	生産遺跡	雨川 滝ノ谷	雑種地	野鈿様式、鉄滓、道路にて畑床半壊	2
385	雨川寺廻寺跡	社寺	雨川 寺廻	宅地他	毘沙門、天神像が祀られている	1
386	雨川家ノ奥跡	生産遺跡	雨川 家ノ奥	山林	高殿様式、鉄滓	1
387	雨川石原跡	生産遺跡	雨川 石原	宅地・畑	野鈿様式、鉄滓散布、石原氏の流れが操業か	1

川西地区

種別	名称	種別	所在地	現況	概要	地図
13	天狗松横穴墓群	横穴	川西 天狗松	畑	調査後消滅	3
14	大妻横穴墓群	横穴	川西 大妻	山林	8穴確認	3
49	川西臨場遺跡	散布地	川西	水田	須恵器、土師器	3
65	内田老ド横穴墓	横穴	川西	雑種地	硬化した妻入型	3
66	老僧山横穴墓群	横穴	川西 老僧小丸	山林	5穴以上、硬化した妻入型が開口	3
67	上方林遺跡	祭祀遺跡	川西	山林	土馬、須恵器、金銅製金具	3
78	瀬ノ尾跡	生産遺跡	川西 瀬ノ尾	雑種地	伊床断面、半壊	3
369	惣寛神下遺跡	散布地	川西 惣寛下	畑地	土師器散布	3
370	大畑遺跡	散布地	川西 大畑	畑地	土師器散布	3

立地と遺跡分布の概要

八川地区は、横田町の中央部に位置し、総面積61.19km²を測り、町全体の3分の1を占める最も大きな地区である。

中国山地の脊梁、三国山が出雲国、伯耆国、備後国の国境にあたり、これを源流とする室原川（下流を下横田川）が南北に八川地区を二分する形で流れ、下横田にて斐伊川と合流する。

下横田の沖積地を中心とする耕地割合は僅か12%で、88%の大部分を山林で占めている。

地質的に見ると、一部に僅かながら安山岩をみるが、花崗岩を母岩とする地質が広がり、坂根、大谷、雨川が鉄穴流しによる地形変貌、悪地形（バットランド）が多く見られ、同様に製鉄遺跡の分布数が多いことが認められる。ことに鉄師絲原家の主力鉦であった「鉄穴鉦（現絲原記念館）」が所在する雨川や大谷の変貌が著しく、同様に製鉄遺跡の分布が多い。しかしながら、町全体でみると八川地区全域の製鉄遺跡数61ヶ所は、島上の117ヶ所に比べ遠く及ばない。このことは、小八川、三森原、大八川、金川、仲仙道の八川の中央部に位置する地域が、真砂土地帯ではなく、俗にいう「石ガランシヨ」地帯であることから、砂鉄採取、鉦製鉄には適さず、もっぱら鉄山として豊富な山林資源を利用したものであろう。

歴史的に見ると、縄文時代、弥生時代の遺構・遺物はいまだ確認されていないものの、下横田の川西を中心とした横穴墓の確認数は町内で群をぬいでいることから、7世紀後半にかけて横田の中核的な集落が形成されていたことが推察されている。

中世に入ると、壇ノ浦の合戦で破れた平家の軍勢が逃れて最後の砦を築いたとされる坂根の一夜城伝説など、源平合戦に関わる伝承が多く伝わる。

11世紀はじめ頃、横田は岩清水八幡宮の荘園となり、1196年（建久7年）に八川宮谷に八幡宮（馬場八幡宮の元宮）が創建され、仙洞御料所の役人であった安部氏（土居）が横田庄に下って初めて住居を構えた地が、大八川地区である。

また、1391年（明德二年）、山名満幸が仙洞御料であった横田庄に本貫地（本領）丹後の石原庄から家臣石原氏を差向け、この地を横領したことに端を発して「明德の乱」が起こったことで知られ、横田の中央を走る大動脈の備後にぬける往還沿いに宝篋印塔、五輪塔残欠の分布が13ヶ所におよび、これらは横田町の他の往還には見られない数である。この多くが明德の乱から戦国時代のものである。

以上、少なくとも明德の乱前後頃までは下横田城を中核とする古市周辺地が、横田庄の中心地であったと考えられよう。「下横田」という地名も京都から備後を通り坂根より下り、中核であった古市より更に下手（下流）にある集落を指したものとされている。

三井野・坂根地区

三井野、坂根地区は八川の最南端で出雲国と伯耆国、備後国の境の山である三国山を頂きとし、その山ふもとと標高600メートルを越える地帯で、三井野の高原地は開墾地として畑が広がる他は、ほとんどが山林地帯である。この地は、両国にぬける往還の玄関口ともいふべき要路に位置している。

源平の戦い「一の谷合戦」で敗れた平家にまつわる伝承が多く残り、その代表的なものが、敗走し

た平家方が最後の砦を一夜にして築いたといわれる「伝平家の一夜城跡」とされるのがループ橋のある台地形状をなす平家平にある。そこからは明治の初め、開墾中に錆びた刀、槍が出土したとのことであるが、その真偽は定かでない。これは、一の谷の合戦に敗走した平家方の諸氏がこの地「平家平」に集結し、抵抗を試みようとしたが、蹴されてしまった哀話として語り継がれたものであるとされる。

また、地質的に良質の砂鉄が採取されること、豊富な山林を抱えていることから、製鉄遺跡が多く分布しており、中世の瀬ノ谷大畝Ⅲ鉦跡から大正年間の雲伯鉄鋼協会の角が「高野」である丸淵鉦跡まで、各年代の製鉄遺跡が発掘調査や文献から明らかにされている。

三森原・大八川・仲仙道地区

南北に長く延びる急峻な丘陵に挟まれ、三国山を源流とする室原川（下流を下横田川という）に沿うようにして走る道は備後にぬける主要な往還で、集落もこれ同じくして形成されている。

今日まで、この地区内では遺跡の確認が全くなされていなかったが、本調査によって、古代に関する遺跡は確認されなかったものの、中世以後の遺跡が幾つか確認することができた。

既述の通り、この往還沿いに五輪塔残欠が多数基確認されたが、この多くが「明徳の乱」に関りのあるものが多いとされる。このことは、京都仙洞御所の役人であった土居安部氏が横田に下って最初に居を構えた地が大八川であったことや、この地に隣接して極楽寺跡があり、その墓地内には6基以上の五輪塔残欠が所在していることも、この時代の所産であることを示唆するものと考えられる。

また、この往還には仲仙道より小八川へ迂回して伯耆、備後国にぬけることができることから、その分岐点にそれぞれ番所が配置されていたことが確認されたほか、近世企業鉦（高殿）跡が2ヶ所確認された。

小八川地区

小八川地区は、鉦原、鉦原奥、錆物屋等の製鉄に関わる地名が多く残るが、遺跡の分布は多く見られず、鉦製鉄遺跡は周知の遺跡を合わせ3ヶ所のみ確認したに過ぎない。いずれも近世企業鉦（高殿）様式のもので、鉦原鉦（台帳上の呼名）はその中で最も大きな鉦である。

地形的に見ると鉄穴流しが行われた形跡が金原越しの一部に見られる程度で、地質的にあまり良質の砂鉄を産しない地であることが伺え、豊富な山林を背景に製鉄が行われた鉄山主体であろう。

いずれにせよ製鉄業の色彩が強い地区である。

金川地区

金川地区は、馬木と八川の境の山である仏山から北に延びる2つの急峻な尾根の谷間に営まれた谷深い集落である。

今日まで、全く遺跡の分布は確認されていなかったが、本調査で4基の製鉄遺跡を確認した。しかしながら、豊富な山林を抱えている割には分布数が少ないといえる。

また、金川谷入口向かって左手の小高い畑地の畦に五輪塔残欠5基以上を確認した。この真下を備後にぬける往還（現国道314号線）が走り、ここの地名を「極楽」と残し、隣接するように「ムジウ堂（無常堂）」の小字名も残していることから、寺院が所在していたことを物語っている。おそらく、五輪塔残欠はこの寺に関係する所産であろう。

古市・土橋地区

山名満幸が仙洞御料所であった横田庄に代官として石原氏を丹波より下らせ、これを横領してしまったことに端を発して明徳の乱がおこった。その10年間、石原氏が砦を築き居を構えたのが、三笠山の下横田城(台帳上の名称)であるとされることから、その中心地と言ってもよく、この争いの占伝として仙洞百姓と岩清水百姓とが連合して山名方と戦ったという所「五日市原」が、八川小学校の裏手に地名を残す。

この下横田城と相対するように下横田川対岸の石橋地区に食膳城跡、宮ノ廻城跡が所在し、ここが仙洞方の陣場であったともいう。

遺跡の分布をみると、周知されていた既述の城郭3基、前述の五日市に所在する土師器、須恵器の散布地の五日市遺跡と近隣にカワラケを多く出土した伊谷遺跡の2ヶ所のほか、本調査で古冢3カ所、寺院跡2カ所、製鉄跡2カ所が確認された。

大谷・雨川地区

この地区は、良質の砂鉄が産する地帯として知られ、谷間ごとに地形変貌、悪地形(バットランド)が見られるほか、鉄穴流しの後に水田が谷深くまで作られている。

このことは、1633年(寛永10年)に糸原家が大馬木大原の湯ノ廻に居を構え初めて鉦を吹き、その後、糸原家が鉦製鉄を廃業した1922年(大正11年)まで主力鉦であった鉄穴鉦(現糸原記念館内)に移りその山内に住居を構えたのも、このことに起因するように思われる。鉄穴鉦も名の通り大規模な鉄穴流しが行われた跡地に山内を形成したものである。

製鉄遺跡は、近世企業鉦様式の大型の遺跡が多く、八川地区においては坂根について多数確認されており、近世企業鉦様式の大型の遺跡が多い。

また、横穴式石室の古ヶ口古墳や杭木古墳は古くより周知されており、明治22年の切岡にも「穴観音」と小字名記載されている。この呼び方は、奥出雲通有の呼名のようである。

下横田について数が多いことが指摘されている。

下横田地区

下横田地区は斐伊川と下横田川との合流地点から上流に開けた河岸段丘地に営まれた水田を有し、散布地、祭祀遺跡、古墳群などの遺跡を多く残す所で大規模な集落があったことが指摘されている。

古くより知られる天狗松横穴墓群、大堰横穴墓群をはじめとする横穴墓が横田町内で最も多く確認されている地帯である。この地より眼下にみる下横田川につくられた河岸段丘地に土師器、須恵器の散布がみられる下横田遺跡が周知されていた。本調査にてこの河岸段丘地に新たに2カ所の土師器の散布が確認されことは、付近一帯にかなり大きな集落が形成されていたことを示唆し、それに伴う墓所として背後の丘陵地帯に横穴墓群が密集している要因の一つと考えられよう。

また、隣接地に農業用水に関わる祭祀遺跡として、町内で初例の金銅製裝飾金具、土馬や町内最大の須恵器甕が出土した上方林遺跡が知られ、これもこの集落に関わるものであろう。

その他の遺跡をみると、製鉄遺跡1ヶ所、寺院跡2ヶ所を追加したのみであった。

主 な 遺 跡

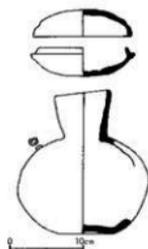
大堀横穴墓群

大堀横穴墓群は、南北にのびる丘陵の東側に穿たれた横穴墓群で、眼下に下横田川の河岸段丘地を見下ろすことができる。かなり古くから知られていたもので、鳥根県史第3巻、横穴の項に「八川村大字下横田字川西」とあるのがこの横穴墓群であり、当然、本書が刊行された大正13年より遙か前に開口し、周知されていたものであろう。

現在、8基が確認されており、いずれも開口後、流入土で再び埋没してしまっているが、古老の話では、子どものころ中に入って遊んだとのことである。

また、蓋環、提瓶の2点が八川小学校に寄託されていたらしく、昭和34年に刊行された八川村史の古墳時代の項に、横穴の実測図と前述の出土遺物2点の実測図が掲載されている。横穴の形状は、いずれも奥出雲地方で通有の形態である三角テント型を呈するもので、上器の形状から山陰の須恵器編年Ⅳ基にあたる。

ここでは、八川村史の実測図を掲載しておく。



大堀横穴出土

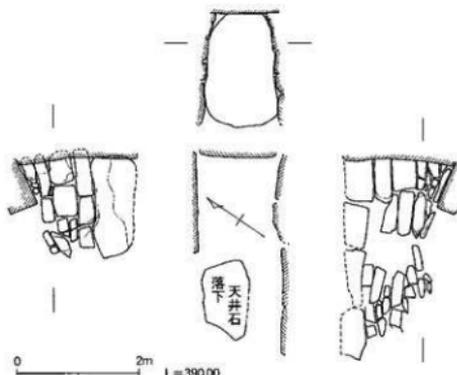
吉ヶ口古墳

吉ヶ口古墳は狭い谷間に面して山麓近く、水田面からの比高が比較的低いところに築造された横穴式石室を主体とする古墳で、地元民は「穴観音さん」と呼び親しんでいる。

この古墳は、明治以前より開口していたと思われ、かつて行われた現県道の拡幅工事で墳丘と石室の半ばを削り取られていたものを、平成8年に更に拡幅工事が行われた際、約2メートルほど後ろに移築し、現在にいたっている。

概して墳丘封上の失われた古墳が多いが、吉ヶ口古墳の場合は良好に残っており、石材積み上げと封土築造の工程が明瞭に観察された。

遺物はまったく残っていないが、石室の築造等から大まかに6世紀末から7世紀初めの築造が推定される。



吉ヶ口古墳石室図

上方林遺跡

この遺跡は、横田盆地の西端、斐伊川と下横田川の合流点から800メートルほど溯った川西地区山ふもとで、幅の狭い緩斜面に所在し、眼下に平野を見渡すことができる。

昭和51年川西地区園場整備中において、近くに住む小学生が土器片を採取して小学校に届けたことに端を発して発見されたもので、遺構としては2つの異なる石敷きまたは石組みと、地表に据えられた大甕と金銅製飾り金具、そして遺跡直下の水田土中から発見された土馬で構成されている。

須恵器大甕は横田町で確認されているものでは最大で、高さ96cm、口径46cmを測り、底部中央に6cmほどの穿孔がある。金銅製飾り金具は奈良国立文化財研究所によって復元され、冠帽の一部ではないかと推察されている。また、土馬は、飾り馬の頭部の部分のみ発見されている。

遺跡の性格は、須恵器大甕を底部孔穿して据え、その破砕を伴う儀礼によって金属製装飾品（冠帽？）を供献した区画で、土馬は近くに置かれたものであろうとされ、石組みは祭祀基壇のようなものと推察される。特に土馬が出土していることから水霊信仰に関する遺跡であろうと考えられている。

また、後世ではあるが近隣に貴布祢社を勧請し、主として農業用水に関する祭りを行っていたこともこれを示唆するものであろう。

下横田城

山名満幸が仙洞御料所であった横田庄に代官として石原氏を丹波より下らせ、これを横領してしまったことに端を発して明徳の乱がおこった。

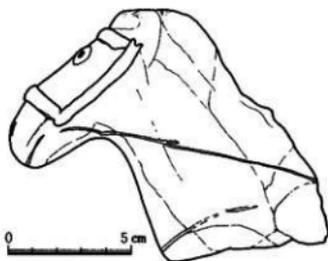
その10年間、石原氏が砦を築き居を構えたのが、この三笠山の下横田城であるとされ、その舞台であったとされる。

平地よりの比高40～50メートルで比較的緩斜面な丘陵である。西北山麓の馬蹄型の谷が台地をなしており、ここが居館と考えられている。

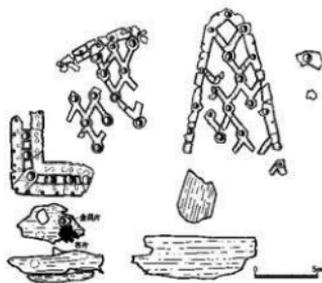
その南東上方の426メートルの丘陵上と館跡と推定される南側の突き出た支尾根に主として小規模な第10ヶ所、先の丘陵上より東にでた曾根に小さい2ヶ所の郭と堀切が認められる。これを主郭として、これより北方に続く尾根上に3ヶ所の郭と土塁、この尾根より館跡の北側に張り出た尾根に2つの郭を設け、館跡をコ字型に囲むように築城されている。

館の前に土居や塼を設け背後に簡単な郭を備えた鎌倉時代から室町時代初期の様式とみられ、もともとは中世武士の防衛を目的として築かれたものと考えられる。

この城に相対するように下横田川向こう岸に食膳城（砦）跡、堂ノ廻城（砦）跡が所在し、現古市を取り囲むように築かれている。



土馬



金銅製装飾品（冠帽？）

瀧ノ谷大畝遺跡（たたら跡・炭窯跡）

遺跡の所在する一帯は、出雲・伯耆・備後の分岐点に近くに位置し、中国山地脊梁にあたる。遺跡地内を旧主要道であると思われる草木に埋もれた幅一間ほどの山道が西城町（備後）および日南町（伯耆）に通じている。調査地点は標高700mを越える深山であり、一帯に豊富な広葉樹林地帯で、古来「坂根鉄山」と呼ばれていた山である。

国営農地開発事業計画地内にたたら製鉄遺跡4基、炭窯遺跡18ヶ所が確認され、協議の結果、たたら製鉄3基、炭窯3基を設計変更し、たたら製鉄1基、炭窯15基が調査された。

たたら跡は、丘陵先端近くの南斜面中腹を断面L字型に縦12m、横14mほど削りだして敷地とし、長さ約2mの浅い溝を掘って炉床とするもので、炉床は浅く粘土貼り構造は明瞭でない。

この両端には浅く凹入する溜まり状遺構が付いており、上手（東）側は鉄滓の流出・貯溜・冷固の場となっており、これらを谷間へ破碎して投棄されている。これに対して下手（西）側の溜まり状遺構には、錆の小塊や炉壁材の細片が多くみられることから、1操業を終えるとき、最後に炉内に貯溜した鉾様の塊を掻き出し、またそれを破碎し粗選別を行ったところかと思われる。

このように炉床の両端に溜まり構造を配するものは、中世以前の遺構に通用にみられる“ひさご型”

又は“鉄鉾鈴型”に属するものである。

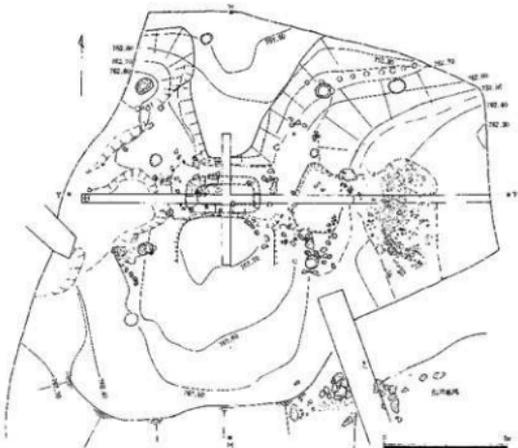
また、中世特有のスサ入の炉壁であること、C-14年代測定によって12世紀中～13世紀中頃と測定結果が得られた。

出土鉄滓を日立金属冶金研究所に依頼して化学分析した結果、真砂砂鉄を原料としたたたら製鉄であることが判明した。

大炭窯とは、通常知られている家庭用燃料木炭窯と基本的な構造は同じであるが、精練工程を行わないため、ほとんどの場合、障壁を設けず木炭室と点火室の区分がない。また、窯体が大きいため、主煙道のほかに副煙道を設ける場合が多い。

窯場の設定は原木運搬、窯床の排水、窯甲土の採掘地点から近いこと、土捏ね等の水利などに考慮するが、概ね古来の窯場を踏襲している。

熱残留地磁気年代測定によって炭窯は、大半が1800年～1880年の間とされ、鉄師ト藏家文書（八川村坂根鐵山瀧ノ谷の立木を炭焼き用材とする売買契約書）によれば、1863年から30年間、遺構のある



瀧ノ谷大畝Ⅲ鉄跡実測平面図

瀧ノ谷地域で炭焼きが稼業されていることから年代的に符号するが、幾つかについて一升ビン、洋釘等が伴出しているので、時代が下る炭窯もあった。

隠地製鉄遺跡（県指定史跡）

昭和55年に絲原記念館が開館し、館の調査事業として周辺の遺跡分布調査が行われ確認された。谷の入口から高殿が営まれた平坦地や鉄穴洗い場が、谷奥には水路トンネルと炭焼窯、鉄穴洗い場南側の高所には鉄穴切羽跡があり、また谷入口の右手には廃砂溜の存在が推定されるなど、各種の遺構が見られる。

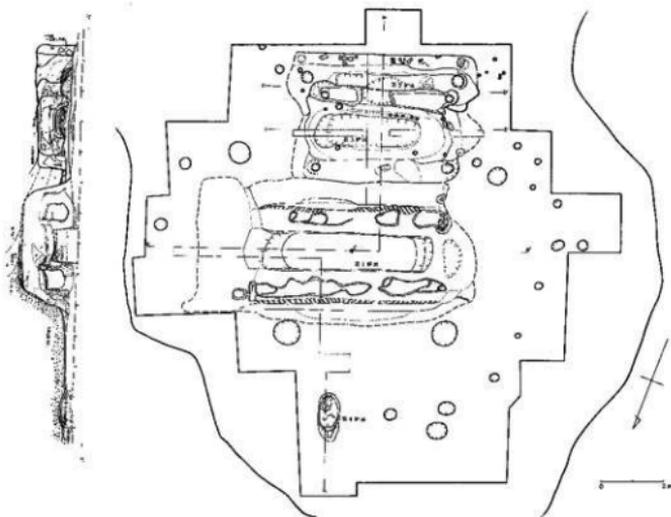
第1炉床は下層にクロボク土を入れただけの床釣りとし、本床両側下に石列を配して元窯土のみ本床壁と小舟内垣を兼ねたものを築いた簡易なものである。

第3炉床は両側に幅40cmの石礫や炉壁片を充填した側溝を有し、その内側を本釜土で埋め、炉心直下は2層にクロボク土を入れて炉底の焼結層を築いている。

第2炉床は第3炉床を築く際に切断されているが、炉心直下にクロボク土を用いず、単に元釜土のみで積み上げている。

第四炉床は代1炉床の北底面にあり、小さな小判形の浅い皿状で、厚さ12~15cmの叩き締めた粘土盤をベースに、粗銼状塊が依存する。この中には鉄滓とともに小礫もあり、性格の異なるもので、あるいは焙焼炉であるのか判断しがたい。

以上の各炉床構造からこの地のたたらは第2から、第3、さらに第1へと発展する様式が層位的に確認され、しかも第2・3炉床は層造的に近世たたらへの直前段階を示すものと考えられている。



炉床平面図及び横断面図

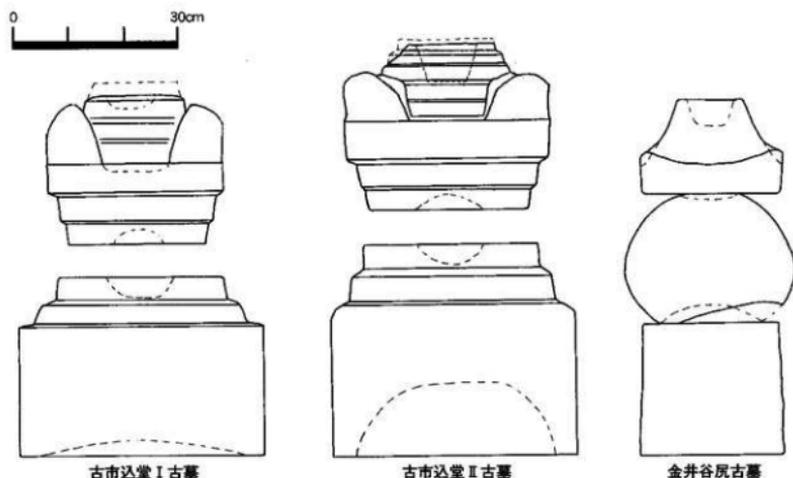
古 墓 (宝篋印塔、五輪塔)

八川地区の古墓の分布数は群を抜いて町内最多の点在13ヶ所確認された。その内訳は宝篋印塔5基以上、五輪塔24基以上で、五輪塔が遥かに多いと思われる。

残存状態の良好なものは少なく、一様に風化が著しく詳細は定かではない。

また、道路拡張などで本来の場所より移動され、セット関係が合わないものも多く見られた。

ここでは、比較的残存状態のよい宝篋印塔、五輪塔の3基を掲載しておく。



五輪塔、宝篋印塔実測図

■参考文献

- 1917年 島根縣史 第4編島根縣内の古墳 島根県史編纂委員会
- 1917年 仁多郡誌 仁多郡役所
- 1959年 八川村史 八川村史編纂委員会
- 1968年 横田町誌 横田町誌編纂委員会
- 1981年 えとのす 新日本教育図書株式会社
- 1982年 島根県横田町周辺の鉄穴流し跡の地形 貞方 昇
- 1983年 隠地・鈿垣内製鉄遺跡調査報告書 横田町教育委員会
- 1986年 島根県埋蔵文化財調査報告書第XII集 島根県教育委員会
- 1995年 吉ヶ口古墳発掘調査報告書 横田町教育委員会
- 1996年 瀧ノ谷大畝遺跡 横田町教育委員会



大塚横穴墓群（東南より）



同左開口状況



老倉山横穴墓群（東南より）



同左開口状況



吉ヶ口古墳（南より）



古屋上古墳（南西より）



下横田河岸段丘（東南より）



土馬（高さ11.5cm）



金属製装飾品（冠帽？）



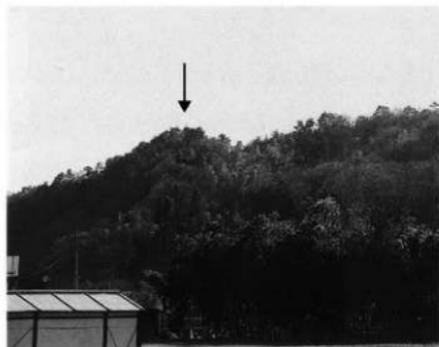
近所にある貴布祿社跡（東南より）



須恵器大甕（高さ96cm）



三笠山城跡 (西より)



食膳城 (砦) 跡 (北より)



堂ノ廻城 (砦) 跡 (東より)



奥八川砦 (のろし) 跡 (北西より)



家ノ上砦 (のろし) 跡 (南より)



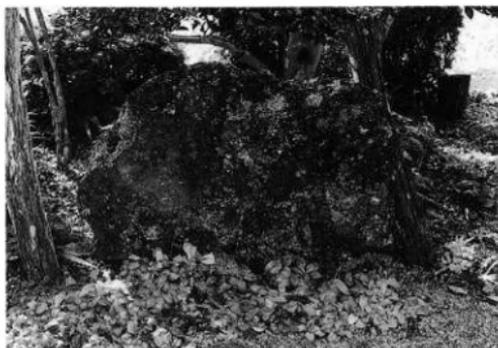
板根瀧ノ谷Ⅱ伊勢所在の石像尊

向かって右の地藏尊
 台座正面 奉造立地藏尊
 意趣者當山為先亡
 後滅靈魂菩提也
 台座右側面 願主 安部孫右衛門
 杠 亦衛門
 元文三戊午歲
 七月 日
 向かって左の地藏尊
 台座正面 奉造立地藏尊
 意趣者當山中為
 果滅靈魂菩提也
 元文三戊午歲
 七月 日
 台座右側面 願主 彌右門
 治良右門
 喜右門
 惣山中
 施主

杠記録（日記）の記載を裏づける石像の刻名



目ノ谷大鏡治屋跡採取の桃形洋



大谷横原伊勢出土の鈿鏡塊



同右の流れ鏡（御神体）



同右のロウソク立て



奥伊勢治屋跡の金屋子神社跡



金井谷尻古墓（五輪塔）



金川無上堂古墓の残欠群



大八川極楽寺上古墓の残欠群



同輪



古市込堂Ⅱ古墓（五輪塔・宝篋印塔）



古市込堂Ⅰ古墓（宝篋印塔）



三森原番所跡 (北西より)



仲仙道番所跡 (北西より)



大畑遺跡 (東より)



惣荒神下遺跡 (南より)



深高畦遺跡 (東より)



同左採取 (須恵器・土師器)

詳細分布調査報告書

横田町の遺跡Ⅲ

—八川地区—

2000.3

編集発行 高根県横田町教育委員会
印刷 株式会社 報光社